

ピリピ人への書

第一章

一 キリスト・イエスの僕たる我ら、パウロとテモテと、書をピリピに在るキリスト・イエスに在る凡ての聖徒、および監督たちと執事たちとに贈る。二 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。三 われ汝らを憶ふことに、我が神に感謝し、四 常に汝ら衆のために、願のつとつと喜びて願をなす。五 是なんぢら初の日より今に至るまで、福音を弘むることに與るが故なり。六 我は汝らの衷に善き業を始め給ひし者の、キリスト・イエスの日まで之を全うし給ふべきことを確信す。七 わが斯くも汝ら衆を思ふは當然の事なり、我が繯綫にある時にも、福音を辯明して之を堅うする時にも、汝らは皆われと共に恩恵に與るによりて、我が心にあればなり。八 我いかにキリスト・イエスの心をもて汝ら衆を戀ひ慕ふか、その證をなし給ふ者は神なり。九 我は祈る、汝らの愛、知識ともるもの悟とによりて彌が上にも増し加はり、一〇 善惡を辨へ知り、キリストの日に至るまで潔よくして躡くことなく、一一 イエス・キリストによる義の果を充して、神の榮光と譽とを顯さん事を。一二 兄弟よ、我はわが身にありし事の反つて福音の進歩の助となりしを汝らが知らんことを欲するなり。一三 即ち我が繯綫

のキリストの爲なることは、近衛の全營にも、他の凡ての人にも顯れ、一四 かつ兄弟のうちの多くの者は、わが繯綫によりて主を信する心を厚くし、懼る事なく、ますます勇みて神の言を語るに至れり。一五 或者は嫉妬と分争とによりてキリストを宣傳へ、あるものは善き心によりて之を宣傳ふ。一六 これは福音を辯明するため、我が立てられたることを知り、愛によりてキリストを宣べ、一七 かれは我が繯綫に患難を加へんと思ひ、誠意によらず、徒黨によりて之を宣ぶ。一八 さらば如何、外貌にもあれ、眞にもあれ、孰も宣ぶる所はキリストなれば、我これを喜び、また之を喜ばん。一九 そは此のこの汝らの祈とイエス・キリストの御靈の賜物とによりて、我が救となるべきを知ればなり。二〇 これは我が何事をも恥ぢずして、今も常のごとく聊かも臆することなく、生くるにも、死ぬるにも、我が身によりてキリストの崇められ給はんことを切に願ひ、また望むところに適へるなり。二一 我にとりて、生くるはキリストなり、死ぬるもまた益なり。二二 されど若し肉體にて生くる事わが勤勞の果となるならば、孰を選ぶべきか、我これを知らず。二三 我はこの二つの間に介まれたり。わが願は世を去りてキリストと偕に居らんことなり、これ逢に勝るなり。二四 されど我なほ肉體に留るは汝らの爲に必要なり。二五 我これを確信する故に、なほ存へて汝らの信仰の進歩と喜悅とのために、汝等すべての者と偕に留らんことを知る。二六 これは我が再び汝らに到ることにより、汝らキリスト・

イエスに在りて我にかかはる誇を増さん爲なり。二七 汝等ただキリストの福音に相應しく日を過せ、さらば我が往きて汝らを見るも、離れみて汝らの事をきくも、汝らが靈を一つにして堅く立ち、心を一つにして福音の信仰のために共に戦ひ、二八 凡ての事において逆ぶ者に驚かされぬを知ることを得ん。その驚かされぬは、彼らには亡の兆、なんぢらには救の兆にて、此は神より出づるなり。二九 汝等はキリストのために啻に彼を信する事のみならず、また彼のために苦しむ事をも賜はりたればなり。三〇 汝らが遭ふ戦闘は、曩に我の上に見しところ、今また我に就きて聞くとおなじ。

第二章

一 この故に若しキリストによる勸、愛による慰安、御靈の交際、また憐憫と慈悲とあらば、二 なんぢら念を同じうし、愛を同じうし、心を合せ、思ふことを一つにして、我が喜悅を充しめよ。三 何事にまれ、徒黨また虚榮のためにすな、おのおの謙遜をもて互に人を己に勝れりとせよ。四 おのおの己が事のみを顧みず、人の事をも顧みよ。五 汝らキリスト・イエスの心を心とせよ。六 即ち彼は神の貌にて居給ひしが、神と等しくある事を固く保たんとは思はず、七 反つて己を空しうし、僕の貌をとりて人の如くなり。八 既に人の状にて現れ、己を卑うして死に至るまで、

十字架の死に至るまで順ひ給へり。九 この故に神は彼を高く上げて、之に諸般の名にまさる名を賜ひたり。一〇 これ天に在るもの、地に在るもの、地の下にあるもの、悉くイエスの名によりて膝を屈め、二 且もろもろの舌の「イエス・キリストは主なり」と言ひあらはして、榮光を父なる神に歸せん爲なり。二三 されば我が愛する者よ、なんぢら常に服ひしごとく、我が居る時のみならず、我が居らぬ今もますます服ひ、畏れ戰きて己が救を全うせよ。二四 神は御意を成さんために汝らの衷にはたらき、汝等をして志望をたて、業を行はしめ給へばなり。二五 なんぢら咳かず疑はずして、凡ての事をおこなへ。二六 なんぢら責むべき所なく素直にして、此の曲れる邪惡なる時代に在りて神の瑕なき子とならん爲なり。汝らは生命の言を保ちて、世の光のことく此の時代に輝く。二七 かくて我が走りしところ勞せしところ空しからず、キリストの日にわれ誇ることを得ん。二八 さらば汝らの信仰の供物と祭とに加へて、我が血を灌ぐとも我は喜ばん、なんぢら衆と共に喜ばん。二九 かく汝等もよろこべ、我とともに喜べ。三〇 われ汝らの事を知りて慰安を得んとて、速かにテモテを汝らに遣さんことを主イエスに頼りて望む。三一 彼は彼のほかに我と同じ心をもて眞實に汝らのことを慮はかる者なればなり。三二 人は皆イエス・キリストの事を求めず、唯おのれの事のみを求む。三三 されどテモテの鍊達なるは汝らの知る所なり、即ち子の父に於ける如く我とともに福音のために勤めた

り。二三この故に我わが身の成行を見れば、直ちに彼を遣さんことを望む。二四我もまた速かに往くべきを主に由りて確信す。二五されど今は先われと共に働き共に戦ひし兄弟、すなはち汝らの使として我が窮乏を補ひしエパフロテトを、汝らに遣すを必要のことと思ふ。二六彼は汝等すべての者を戀ひしたひ、又おのが病みたることの汝らに聞えしを以て悲しみ居るに因りてなり。二七彼は實に病にかかりて死ぬばかりなりしが、神は彼を憐みたまへり、啻に彼のみならず、我をも憐み、憂に憂を重ねしめ給はざりき。二八この故に急ぎて彼を遣す、なんぢらが再び彼を見て喜ばん爲なり。又わが憂を少うせん爲なり。二九されば汝ら主において歡喜を盡して彼を迎へ、かつ斯くのごとき人を尊へ。三〇彼は汝らが我を助くるに當り、汝らの居らぬを補はんとして、己が生命を賭け、キリストの事業のために死ぬばかりになりたればなり。

第三章

一 終に言はん、我が兄弟よ、なんぢら主に在りて喜べ。なんぢらに同じことを書きおくるは、我に煩はしきことなく、汝等には安然なり。二 なんぢら犬に心せよ、惡しき労働人に心せよ、肉の割禮ある者に心せよ。三 神の御靈によりて禮拜をなし、キリスト・イエスによりて誇り、肉を恃まぬ我らは眞の割禮ある者な

り。四 されど我は肉にも恃むことを得るなり。もし他の人、肉に恃むところありと思はば、我は更に恃む所あり。五 我は八日めに割禮を受けたる者にして、イスラエルの血統、ベニヤミンの族へブル人より出でたるへブル人なり。律法に就きてはパリサイ人、六 熱心につきては教會を迫害したるもの、律法によれる義に就きては責むべき所なかりし者なり。七 されど曩に我が益たりし事はキリストのために損と思ふに至れり。八 然り、我はわが主キリスト・イエスを知ることの優れたるために、凡ての物を損なりと思ひ、彼のために既に凡ての物を損せしが、之を塵芥のごとく思ふ。九 これキリストを獲、かつ律法による己が義ならで、唯キリストを信する信仰による義、すなはち信仰に基きて神より賜はる義を保ち、キリストに在るを認められ、一〇 キリストとその復活の力を知り、又その死に効ひて彼の苦難にあづかり、一 如何にもして死人の中より甦へることを得んが爲なり。二 二われ既に取れり、既に全つせられたりと言ふにあらず、唯これを捉へんとて追ひ求む。キリストは之を得させんとて我を捉へたまへり。三 兄弟よ、われは既に捉へたりと思はず、唯この一事を務む、即ち後のものを忘れ、前のものに向ひて勵み、四 標準を指して進み、神のキリスト・イエスに由りて上に召したまふ召にかかはる褒美を得んとて之を追ひ求む。五 されば我等のうち成人したる者は、みな斯くのごとき思を懐くべし、汝等もし何事にて異なる思を懐き居らば、神これをも示し給はん。一六

ただ我等はその至れる所に隨ひて歩むべし。一七 兄弟よ、なんぢら諸共に我に效ふものとなれ、且なんぢらの模範となる我らに循ひて歩むものを視よ。一八 是は我しは汝らに告げ、今また涙を流して告ぐる如く、キリストの十字架に敵して歩む者おほければなり。一九 彼らの終は滅亡なり。おのが腹を神となし、己が恥を光榮となし、ただ地の事のみを念ふ。二〇 されど我らの國籍は天に在り、我らは主イエス・キリストの救主として其の處より來りたまふを待つ。二一 彼は萬物を己に服はせ得る能力によりて、我らの卑しき狀の體を化へて、己が榮光の體に象らせ給はん。

第四章

一 この故に我が愛するところ慕ふところの兄弟、われの喜悅われの冠冕たる愛する者よ、斯くのごとく主にありて堅く立て。二 我ユオデヤに勧めメントケに勤む、主にありて心を同じうせんことを。三 また眞實に我と軛を共にする者よ、なんぢに求む。この二人の女を助けよ。彼らはクレメンヌ其のほか生命の書に名を録されたる我が同業者と同じく、福音のために我とともに勤めたり。四 汝ら常に主にありて喜べ、我また言ふ、なんぢら喜べ。五 凡ての人に汝らの寛容を知らしめよ、主は近し。六 何事も思ひ煩ふな、ただ事ごとに祈をなし、願をなし、感謝して汝

らの求を神に告げよ。七 さらば凡て人の思にすぐる神の平安は、汝らの心と思とをキリスト・イエスによりて守らん。八 終に言はん、兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ尊ぶべきこと、凡そ正しきこと、凡そ潔よきこと、凡そ愛すべきこと、凡そ令聞あること、如何なる徳いかなる譽にても、汝等これを念へ。九 なんぢら我に學びしところ、受けしところ、聞きしところ、見し所を皆おこなへ、さらば平和の神なんぢらと偕に在さん。一〇 汝らが我を思ふ心の今また萌したるを、われ主にありて甚く喜ぶ。汝らは固より我を思ひぬたるなれど、機を得ざりしなり。一一 われ窮乏によりて之を言ふにあらず、我は如何なる狀に居るとも、足ることを學びたればなり。一二 我は卑賤に在る道を知り、富に在る道を知る。また飽くことにも、飢うることにも、富むことにも、乏しき事にも、一切の秘訣を得たり。一三 我を強くし給ふ者によりて、凡ての事をなし得るなり。一四 されど汝らが我が患難に與りしは善き事なり。一五 ピリピ人よ、なんぢも知る、わが汝らに福音を傳ふる始、マケドニヤを離れ去るとき、授受して我が事に與りしは、汝等のみにして、他の教會には無かりき。一六 汝ら是我がテサロニケに居りし時に、一度ならず二度までも我が窮乏に物贈れり。一七 これ贈物を求むるにあらず、唯なんぢらの益となる實の繁からんことを求むるなり。一八 我には凡ての物そなはりて餘あり、既にエバフロデトより汝らの贈物を受けたれば、飽き足れり。これは馨しき香にして神の享け給ふところ、喜び

たまふ所の供物なり。一九かくてわが神は己の富に隨ひ、キリスト・イエスによりて汝らの凡ての窮乏を榮光のうちに補ひ給はん。二〇願はくは榮光世々限りなく、我らの父なる神にあれ、アアメン。二三汝らキリスト・イエスに在りて聖徒おのおのに安否を問へ、我と偕にある兄弟たち汝らに安否を問ふ。二三凡ての聖徒、殊にカイザルの家のもの、汝らに安否を問ふ。二三願はくは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈と偕に在らんことを。